

A large LNG carrier ship is silhouetted against a bright sunset sky. The ship's complex superstructure, including cranes and a tall tower, is clearly visible. The sun is low on the horizon, creating a warm orange glow that reflects on the water's surface. The overall scene is serene and industrial.

LNGビジネスの拡大戦略 ～アバディLNGプロジェクト～

常務執行役員 アジア事業本部長
渡邊 章弘

1

アバディLNGプロジェクト概要

2

スケジュール

3

マーケティング・資金調達

4

経済性・想定されるリスクと対応策

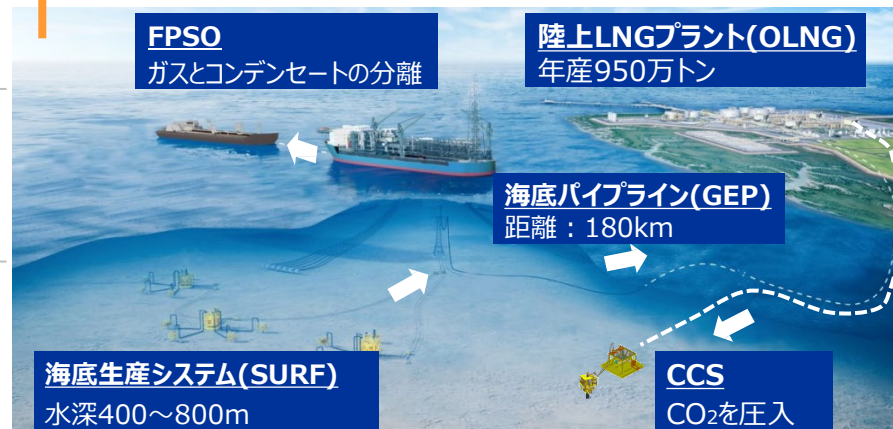
1. アバディLNGプロジェクトの概要

鉱区位置	インドネシア共和国アラフラ海
名称	マセラ鉱区
期限	2055年まで
権益比率	INPEX 65% プルタミナ 20% ペトロナス 15%
生産量 (計画)	LNG 年産950万トン パイプラインガス 150mmscfd コンデンセート 35,000boed (ピーク時)
CCS	天然ガスに随伴するCO ₂ を全量除去 ※LNG生産開始とともに稼働予定
作業状況	2023年、CCSを含めた改定開発計画承認、 現在FEEDに向けた準備作業中

ガス田位置



開発コンセプト



生産開始までのスケジュール：2030年代初頭生産開始を目指す

FEED準備
本年

FEED（基本設計）
2年程度

FID

EPC（設計・調達・建設）
5年程度

生産
開始

- 現在はFEED開始に向けた準備作業を実施中
 - 陸上・海上の物理探査・地盤調査（G&Gサーベイ）
 - FEEDに向けた入札作業
 - 環境等許認可取得作業ほか
- FEED（2年程度）後FID、その後EPC（5年程度）を経て生産開始へ
- FEED及びEPCはOLNG、FPSO、GEP、SURFのパッケージごとに実施
- FIDに向けFEEDと並行してマーケティング、資金調達、土地確保等を継続



FIDに向けFEEDと並行してマーケティング・資金調達を継続

マーケティング



- 2020年よりマーケティング活動を実施
- これまでにインドネシアを含む東南アジア、東アジアの買主を中心に予定数量を超える関心表明有り（MOU・LOIを締結/合意済み）
- 買主とのエンゲージメントを継続

資金調達



- 本年2Qに各国の銀行に対してマーケットサウンディングを実施
- アジア系銀行を中心に、積極的な貸出意欲を確認
⇒想定借入額を十分に上回る関心表明あり

経済性：IRR10%台半ばを目指す

(現実的な前提条件の下で)

プロジェクト実行リスク (グリーンフィールドプロジェクト)

- ・ イクシスで得た知見・lessons learnedの活用
- ・ プルタミナ、ペトロナスから経験豊富な人材を受け入れ

インドネシア カントリーリスク

- ・ インドネシア政府当局と密なコミュニケーションを維持
- ・ 国営企業であるプルタミナと連携

コスト・スケジュール

- ・ FEEDを通じた確度の高いコスト・スケジュール見積もり

FEED後、最新のコスト・スケジュール見積もりを元に
インドネシア政府とプロジェクトの経済性を再確認し、十分な経済性を確保する

※インドネシア政府もINPEXがIRR10%台半ばを目指すことを認識